

## IV 学校研究

### 1 研究主題

自分の言葉で、自分の考えを伝え合うみずほっ子を目指して  
～言語能力の向上を図り、学びの質を高める～

### 2 主題設定の理由

令和4年度は、対話を通して、言語能力の向上を図り、関わり合いながら自分の言葉で伝え合うみずほっ子を目指し、国語科・算数科・社会科・理科・体育科を通して学校研究に取り組んだ。その中で、読み取った情報を比較・関連付けしながら、見方や考え方を獲得する input や整理した情報を効果的に配列し、筋道立てて自分の言葉で表現する output に重点を置いて授業を行ってきた。その結果、児童の意識アンケートから、理由や根拠を示しながら自分の言葉で伝える意識の高まりが見られた。

しかし、学力調査等の結果から、複数の資料を関連付ける思考力や、読み取ったことを自分の言葉に置き換えて、適切に表現する力が弱点として見られた。そのことから、最終的に目指す『自分の言葉で、自分の考えを伝え合う』児童の育成がまだ充分とは言えないと感じた。

そこで、今年度もシン・HAKUISMをベースとして、児童の言語能力の育成に重点を置いていく。input（思考力）、output（表現力）の際に「個別最適な学び」を意識し、児童の自己決定の場を確保し、効果的な対話を目指し、言語能力の向上を図る研究を進めていくこととする。また、これまで同様、ICT機器を効果的に活用し、言語能力の向上を図りたいと考えている。

そして、体力の向上と自己肯定感の向上との関連についても探っていきたい。

### 3 目指す児童像

令和5年度の学校研究で目指す児童像を以下のように考えた。

- ・自分の考えを明確にもち、考えたことを自分の言葉で伝え合う児童
- ・友達と協力しながら、課題解決に取り組み、最後までやり遂げる児童

### 4 研究仮説

目指す児童像の実現に向け、以下の仮説を打ち立てた。

児童の実態に応じて、自己決定できる個別最適な学びと対話を含めた協働的な学びを両輪として進めることで、自分の言葉で伝え合うことができる児童が育つであろう。

### 5 具体的な取組

仮説を実証するに当たり、目指す児童像の実現に向けた取組を以下のように考えた。

#### Base of the study 日常の鍛え

- ・思考力や表現力を支える基本的な語彙力や算数の基礎的計算力、教科の言葉を身に付ける。
- ・相手の話を聴き、相手から学ぼうとする姿勢を身に付ける。

#### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒辞書引き指導、漢字検定、新聞記事の読み解きワークシートの取組、基礎基本の定着。
- ⇒自己肯定感アンケートやQUを活用した学級づくり。QUとNRTとのクロス集計。

#### Input 自分の考えや思いを明確にもつ

- ・読み取った情報を吟味し、知識と関連付けながら、見方や考え方ができるようにする。
- ・複数の資料の情報を関連させて考えたことや疑問に思ったことをノートやワークシートに整理する。

#### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒複数の資料を比較したり、関連付けたりするための思考ツールなどの指導。
- ⇒考えをもてるような手立て。（ワークシートを選ぶことができる工夫、ヒントカードなど）

## Output 自分の考えや思いを表現する

- ・接続詞を使いながら筋道立てて説明することができる。
- ・自分の考えや思いを根拠を示しながら伝えることができる。

### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒接続詞（そして、まず、次に、だから、例えば、つまり）の指導
- ⇒三角ロジック（自分の考え・理由・根拠）の指導
- ⇒対話のトレーニング

## Output+ 自分の言葉で伝え合う

- ・自分の経験と重ねたり、例えを使ったりして、自分の考えや思いを説明することができる。（例えば～）
- ・授業の中で学んだことや友達の考えを聞いて再考したことを、自分の言葉に言い換えてまとめることができる。（つまり～）
- ・自分の学びを振り返り、伝え合うことができる。

### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒自分の考えや思いを伝え合う場の設定（導入・山場での対話学習・振り返り）
- ⇒自分の言葉で伝えたい教材の工夫（活用問題）
- ⇒児童の考えを引き出す教師の発問（切り返し・問い直す・聞き出す・深める発問）

## Bring out ICT 機器の効果的な活用（GIGA スクール構想、シ・HAKUIISM に則って）

- ・ICT 機器を活用して、拡大された挿絵や写真等から情報を取り出すことができる。【一斉学習】
- ・ICT 機器を活用して、自分に合った進捗で学習したり、自らの疑問について深く調べたりする。【個別学習】
- ・ICT 機器を活用して、対話場面で自分の考えや思いを交流し、学びを深めることができる。【協働学習】

### 【具体的な学習活動・指導法・手立て】

- ⇒デジタル教科書、電子黒板等を活用した導入の工夫（input）
- ⇒タブレット PC 等でまとめたもの（思考の可視化・他者情報の共有・協働作業）を媒介とした対話場面の設定（Output）
- ⇒タブレット PC 等を活用した振り返りの場の設定（output+）

## 6 研究の検証方法

以下の通りに検証方法を設定する。

- ①NRT・QU・学期末テスト・市学力テスト・自己肯定感アンケート等の結果の分析
- ②学習に関する児童アンケートの分析
- ③T⇄each の分析（視点をもった相互授業参観）
- ④ST 分析での授業評価
- ⑤振り返りや単元の終末におけるまなびいレポートの変容

## 7 研究組織

| 部会名       | 取組内容                         | メンバー                                   |
|-----------|------------------------------|--|
| 研究推進委員会   | 学校研究の総括                      | 校長・教頭・教務主任（松本）<br>研究主任（前田）・中（前田）・高（上杉） |
| 授業力<br>向上 | 指導研究部会                       | 指導法の研究・提案等                             |
|           | GIGA スクール構想<br>HAKUIISM 推進部会 | GIGA スクール構想の計画・実践<br>動画編集等             |
| 集計・分析部会   | 学力調査の集計・分析・総括等<br>T⇄each 推進等 | 松本・上杉・藤澤・前田                            |
| 検証部会      | 取組の検証・進捗状況の確認                | 藤澤・石森                                  |
| 学びの土台部会   | 朝自習・ドリルタイム・教室掲示・家庭学習         | 新田・辻口・竹視                               |

### 研究主題

自分の言葉で、自分の思いや考えを伝え合うみずほっ子を目指して  
～言語能力の向上を図り、学びの質を高める～

### 研究仮説

児童の実態を考慮しながら、自己決定できる個別最適な学びと対話を含めた協働的な学びを両輪と考えることで、自分の言葉で伝え合うこと

## 深い学びの実現

#### 目指す児童像

自分の考えを明確にもち、  
考えたことを自分の言葉  
で伝え合う児童

#### 目指す児童像

友達と協力しながら、課  
題解決に取り組み、最  
後までやり遂げる児童

#### ICT機器の活用

課題をもつ導入場面で

#### ICT機器の活用

対話の場面で

### 思考力

自分の考えを

もちつ力の育成

個別最適な学び  
自己決定

### 表現力

自分の考えを

表現する力の育成

協働的な学び  
対話

言語能力を高める

input

- ⇒複数の資料を比較したり、関連付けたりするための「見方や考え方」(思考ツールなど)の指導。
- ⇒教科の用語を使うことの習慣化。
- ⇒単元や本時で使いたい・使わせたいキーワードの明確化。

output

- ⇒接続詞(そして、まず、次に、だから、例えば、つまり)の指導。
- ⇒三角ロジック(自分の考え・理由・根拠)の指導。
- ⇒対話のルーティング。
- ⇒自分の考えや思いを伝え合う場の設定
- ⇒自分の言葉で語りたくなる教材の工夫(活用問題)
- ⇒児童の考えを引き出す教師の発問(切り返し、深める)

思考力や表現力を支える語彙力、学びの基礎・基本  
自己肯定感の向上